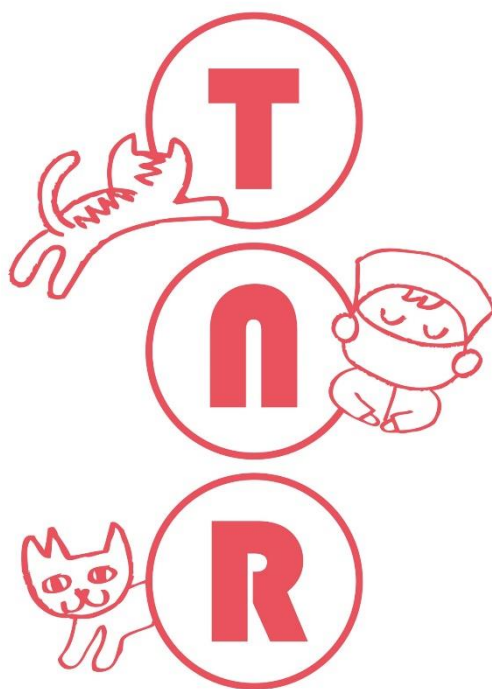


大阪学院大学さくらねこTNRプロジェクト 実施報告書



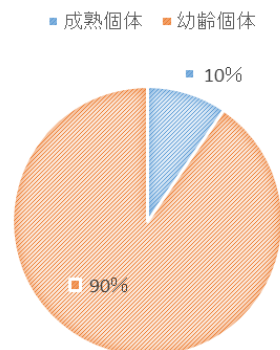
doubutukikin since 1988

主 催：公益財団法人どうぶつ基金
共 催：大阪学院大学
日 程：平成28年9月7日（水）（手術日）

大阪府の現状

平成26年度環境省調べのデータによると、大阪府は年間4,185頭の猫を殺処分している。その中で、離乳前の子猫は3,786頭にのぼり、殺処分数の90%を占める。言い換えれば、大阪府はTNRを実施することで、90%の殺処分を予防することができる地域といえる。

大阪府殺処分数割合



自治体名	猫									
	引き取り数				処分数					
	飼い主から		所有者不明		返還数	返還数のうち 幼齢個体	譲渡数	譲渡数のうち 幼齢個体	殺処分数	殺処分数のうち 幼齢個体
	成熟 個体	幼齢の 個体	成熟 個体	幼齢の 個体						
大阪府	103	84	11	1,310	0	0	65	55	1,454	1,347
大阪市	116	40	57	1,889	1	0	127	106	2,051	1,823
堺市	15	13	15	168	2	0	41	38	161	137
高槻市	1	0	0	87	0	0	15	15	73	72
豊中市	11	0	0	97	0	0	7	7	101	90
東大阪市	26	29	1	273	0	0	20	15	312	286
枚方市	1	0	2	37	0	0	9	8	33	31
合計	273	166	86	3,861	3	0	284	244	4,185	3,786

大阪学院大学

大阪学院大学は、住宅地と隣接する大学である。



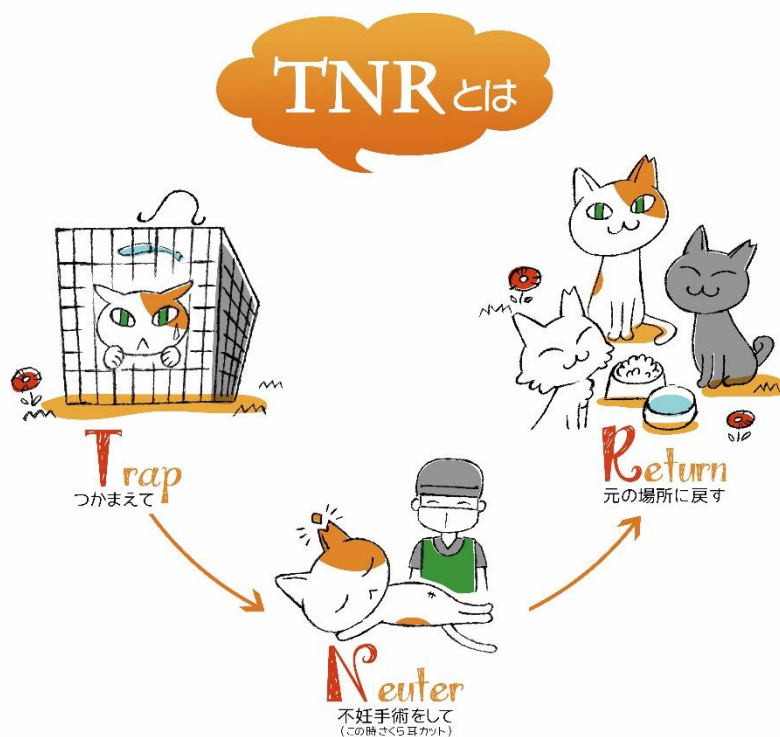
大阪学院大学HPより画像引用

大阪学院大学

1年以上前から大学構内に棲みついている猫へのエサやりに対するクレームがあり、近隣の住宅への糞尿等の被害もあることから、地域住民と連携してエサやりの適正化や猫との共存を実現するために、TNR活動を申請・実施した。TNRにより鳴き声や糞尿の被害を軽減し、手術後の猫に対する餌付けを行い、大学が定めた場所にエサ場を移動することで、人と猫が共存できる地域づくりを目指したい。

(申請書より抜粋)

上記の内容で大阪学院大学からの申請を受け「さくらねこ一斉TNR無料不妊手術」を大阪学院大学キャンパス内にて実施することとなった。



手術会場



大阪学院大学構内の教室を手術会場としてセッティングを行った。

猫保護場所



手術会場の同部屋の一角を保護場所として確保し、24時間体制で空調管理を実施した。

手術日

9月7日（水）	
9：00	会場設営
9：45	朝礼
10：00	手術開始
12：00	昼休憩
13：30	手術再開
15：00	手術終了
16：00	撤収完了・終礼

協働人数（手術日）

所属	人数
どうぶつ基金	スタッフ3名 獣医師2名
のらねこさんの手術室	3名
大阪学院大学職員	5名
大阪学院大学学生	5名
その他地域ボランティア	10名

捕獲器・ケージ使用台数

所持者	捕獲器	ケージ
どうぶつ基金	50台	0台



どうぶつ基金から捕獲器50台の貸出を行い、北摂TNRサポートののらねこさんの手術室のスタッフさんがボランティアで参加し、捕獲器の使い方のレクチャーや実際の捕獲のサポートを行った。

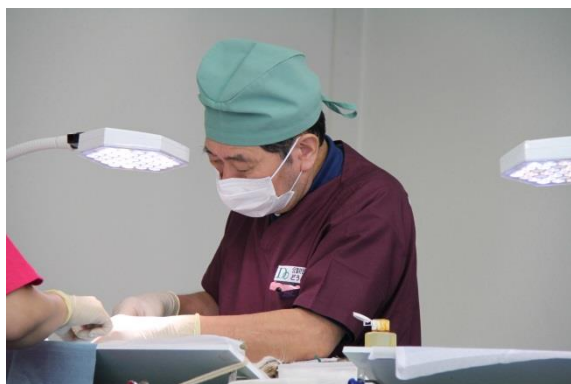
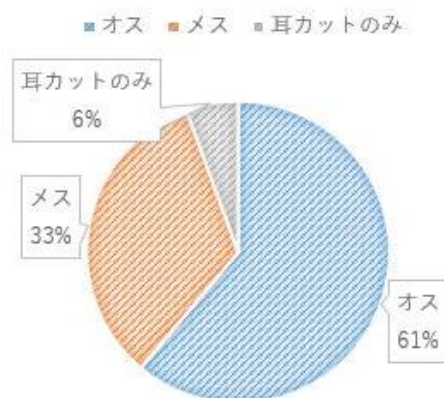
手術数

	オス	メス	耳カットのみ	計
9月7日	11	6	1	18

処置内容

不妊去勢手術、ワクチン、ノミ・ダニ・回虫の駆除薬（レボリューション）、点眼、補液50cc

オスメス割合



● 山口獣医師長（執刀医）



● 池田獣医師（ボランティア参加）

手術会場の様子

doubutukikin



●手術前に全員で朝礼を行う



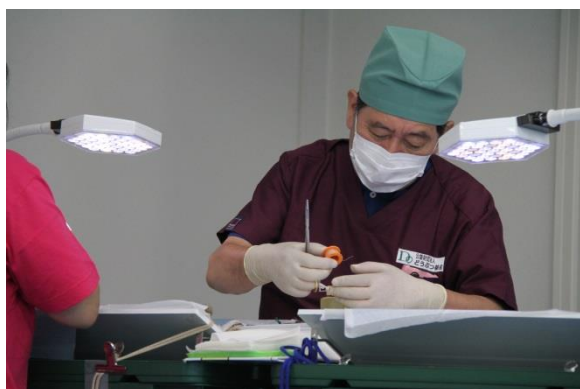
●手術待ちの猫



●安定剤、麻酔、抗生剤、ワクチンを打つ



●手術前に、お腹の毛刈りや耳カットを行う



●不妊去勢手術



●猫が手術を受けている間にケージを洗浄

手術会場の様子

doubutukikin



- 術後ケアとして、補液や目薬、消毒、耳掃除をおこなう



- 術後の猫は一晩安静にする



- 北摂TNRサポートのらねこさんの手術室のスタッフさんがボランティア参加した



- 多くの学生がボランティア参加した



- 手術翌日から学生と職員で餌やりを実施



- さくらねこたちが元気な姿を見せてくれた

Sakura Neko
TNR

●2016年9月9日 NHKニュース

www3.nhk.or.jp/kansai-news/20160907/5072141.html

NHK NEWSWEB

2016年（平成28年）9月9日（金曜日）



関西 NEWS WEB

関西 NEWS WEB TOPへ戻る

ニュース詳細

大学構内の野良猫に避妊手術

09月07日 15時23分



飼い主のいない野良猫が増えすぎるのを防ごうと、7日、大阪・吹田市の大学で、キャンパス内の野良猫に避妊手術を行って元の場所に返す取り組みが行われました。

大阪・吹田市にある大阪学院大学では、キャンパス周辺に野良猫が増えている、地元の住民の間でいわゆる「地域猫」として受け入れる人がいる一方で、鳴き声や排せつ物などが問題となるケースも少なくありません。

このため、大学では、野良猫が増えすぎて処分につながるのを防ごうと、公益財団法人「どうぶつ基金」に依頼して、キャンパス内の野良猫の避妊手術を行いました。

7日は、大学の教室に6日までに捕獲された野良猫17匹が集められ、獣医師が一匹ずつ手術を行いました。

手術を終えた猫は、耳の先に「さくら耳」と呼ばれる小さな切れ込みが入れられ、元の場所に返されるということです。

大阪府動物愛護畜産課によりますと、この切れ込みがある猫は、適切な世話を受けている「地域猫」として、通常、処分の対象にはならないということです。

大阪学院大学庶務課の宮原秀明課長は、「野良猫についてさまざまな意見がある中で、地域の人たちと相談した上で大学としてこの方法を選んだ。今後も大学にいる猫を適切に管理していきたい」と話していました。

ツイート シェア チェック

※クリックするとNHKサイトを離れます。

「大阪府動物愛護畜産課によりますと、この切れ込みがある猫は、適切な世話を受けている「地域猫」として、通常、処分の対象にはならないということです」

（NHK報道から抜粋）

行政のさくらねこに対する正しい考え方が、初めて公共放送で紹介されました。今回の放送は、日々ボランティアで自腹を切って「さくらねこ活動」を行っている全国の猫ボランティアの皆さまに大きな勇気と自信を与えてくれました。



今回のケースでは大学当局が主体となり、学生・大学職員、地域住民、市民ボランティアが協働して地域の課題解決に取り組んだ全国初のケースでした。地域における学校の社会的責任（school social responsibility）や役割が問われる今日、生き物の命を大切にしながら、社会に対して地域の問題解決に真摯に取り組んでいる大学の姿勢は学生や地域の皆様、深夜にわたり捕獲作業を行った猫ボランティアさんにも大きな感動を与えてくれました。

大学当局からは「今後は、学生・教職員、地域住民が連携して、手術後の猫に対する餌付けを行い、大学が定めた場所にエサ場を移動することで、人と猫が共存できる地域づくりを目指す」という報告を受けています。

学校のねこ問題は全国で起きています。大阪学院大学の取り組みが今後のよきモデルケースとなることを願っています。

理事長 佐上邦久



公益財団法人 どうぶつ基金

大 阪 学 院 大 学